事実は小説より奇なり

Fact is Stranger than Fiction

実際に起こる出来事は、創造物よりも、はるかに複雑で波瀾に富んでいる。
我々が生きるこの世界にはそんな物語が溢れかえっている。
ニュースやネットでは、「誰かの人生」が発信され続けている。
でもテレビでは伝えきれない「事実」や、SNSでは届かない声なき「心の声」がある。
一生懸命に自分の人生を生きている人たちと、
それに劣らぬ情熱、熱量で追い続ける記者やディレクターたち。
TBSドキュメンタリー映画祭では、そんな「誰かの人生」に触れることができる。
そして、観た人の価値観を変えてしまうエネルギーがある。

伝えたいことが、ここにある。

2024年 映画祭 開催概要

東　京	ヒューマントラストシネマ渋谷	3月15日(金)～3月28日(木)
大　阪	シネ・リーブル梅田	3月22日(金)～4月4日(木)
名古屋	センチュリーシネマ	3月22日(金)～4月4日(木)
京　都	アップリンク京都	3月22日(金)～4月4日(木)
福　岡	キノシネマ天神	3月29日(金)～4月11日(木)
札　幌	シアターキノ	3月30日(土)～4月11日(木)

＊上映スケジュール、登壇イベント、チケット販売情報は、映画祭公式HP・SNSをご覧ください

「ソーシャル」「ライフ」「カルチャー」
3つのテーマで選ばれた、
至極のドキュメンタリー15作品共通！

特典付き ムビチケカード 発売中！ ¥1,400(税込)

数量限定
特製ポストカードプレゼント

映画祭 来場者特典
DOCSメンバーズカード

観客賞は アナタが決める！
メンバー限定特別サイトにアクセスして
投票できる他、お得な情報満載！

詳しい情報は、映画祭HPをチェック！ https://www.tbs.co.jp/TBSDOCS_eigasai
TBSドキュメンタリー映画祭2024 検索　公式 𝕏 をフォロー！ @TBSDOCS_eigasai

本気の人間は、面白い。

価値観を変える旅へ。

TBSドキュメンタリー映画祭2024

主催:TBSテレビ　協賛:ゼリア新薬工業

TBS DOCS
テレビも、SNSも超えて、映画で伝えたいことがある。

3.15 Fri より6都市にて順次開催
東京 | 大阪 | 名古屋 | 京都 | 福岡 | 札幌

知的探究心を刺激する、今観るべき至極の15作品

ライフ・セレクション ｜ 家族の形や身体的な障害など多様な生き方や新たな価値観を描く

ママが2人いる…
丁寧に話したい、もう後悔したくないから

私の家族

特別養子縁組で新生児を家族に迎えた久保田智子。彼女は、2歳になった娘に生みの母について語りかける。“真実告知”という、子どもに出自を伝える時期に入ったのだ。家族の過去と向き合い、産んでも育てられなかった女性との交流を重ね、たどり着いた“真実”と伝え方とは…。

監督：久保田智子

© TBS

鑑賞後もあなたは、
ハーレム教団と呼びますか？

方舟にのって
～イエスの方舟 45年目の真実～

1980年、10人の女性が突如姿を消したと報道される。謎の集団「イエスの方舟」の主催者・千石剛賢が、美しく若い女性を次々と入信させハーレムを形成しているというのだ。日本中が騒然、千石が不起訴となり騒動は一応の終止符が打たれるが、彼女たちの共同生活は44年たった今も続いていた…。

監督：佐井大紀

© TBS

難病「魚鱗癬」を知っていますか？
RKB報道部が伴走した軌跡

魚鱗癬と生きる
―遼くんが歩んだ28年―

皮膚が魚の鱗のように硬くなり、剥がれ落ちていく難病「魚鱗癬（ぎょりんせん）」。梅本遼さんは、この病気と真正面から向き合い、受け入れて、周囲の偏見と闘ってきた。辛いことや困難があっても、一つ一つ乗り越えて希望を叶えてきた遼さん。その28年を追った。

監督：大村由紀子

© RKB

制御不能な”もう1人の僕“
「ヘルプマークあっても変わらない」

劇場版
僕と時々もう1人の僕
～トゥレット症と生きる～

ウーバーイーツ配達員の男性は、幼少期からナゾの病に苦しみ続けていた。突然、もう1人の自分が現れ勝手にしゃべりだす。その病は原因不明、確固たる治療法もなく「悪魔の病」という人もいる。あなたも街ですれ違ったことがあるかも…「トゥレット症」と闘っている人と。

監督：柳瀬晴貴

© CBC

カルチャー・セレクション ｜ 五感を司る表現者たちやテーマを通し、新たな感性に出会う

ありがとう先生！
ご飯作って食べるのがメッチャ楽しくなりました

映画
情熱大陸 土井善晴

「一汁一菜」。土井はご飯・味噌汁・簡単なおかずで日々の食事は十分と提案し、料理を億劫に感じる人の心を軽くする。作りやすいレシピの紹介で人気の“土井先生”だが、いま、レシピから離れる大切さを説く。生き辛さを抱える時代に新たな暮らしの哲学を模索する料理研究家の情熱を見つめる。

監督：沖 倫太朗

© MBS

日本を愛し、
日本に愛されたバンドによる最後の別れ――

最後のMR.BIG
～日本への愛と伝承～

アメリカのロックバンド・MR.BIG。全米NO.1ヒット曲を持ち、特に日本では絶大な人気を誇る。彼らも日本を愛し、東日本大震災の際には、外国人アーティストとして最初に被災地でライブを行った。しかし、ドラマー・パットさんが難病により死去。彼らの日本での『さよならツアー』を追った。

監督：川西 全

© TBS

「カッコ悪くていい」
刑務所からの再起を賭けた男の物語

ダメな奴
～ラッパー紅桜 刑務所からの再起～

2023年6月、ある男が約4年の服役を終え出所した。男の名は「紅桜」。HIPHOPシーンで一躍脚光を浴びたラッパーだ。突如表舞台から姿を消した男を「伝説のラッパー」とさえ呼ぶ者も。出所の瞬間から再起を賭けた復活ライブまでの軌跡を追い、不器用なまでに全てをさらけ出した男の生き様に迫る。

監督：嵯峨祥平

© TBS

身体的特徴も個性もバラバラ。
Mi-Mi-Biの身体を巡る旅

旅する身体
～ダンスカンパニー Mi-Mi-Bi ～

神戸市新長田。アーケード街の一角にある小劇場で新たなダンスカンパニーが生まれた。義足の人、見えない人、聞こえない人、車椅子の夫婦、ダンスが得意な人、7人のメンバーで構成される“Mi-Mi-Bi（みみび、未だ見たことのない美しさ）”。豊岡演劇祭で行われるデビュー公演のテーマは彼らの『身体を巡る旅』。身体的特徴も個性もバラバラ。Mi-Mi-Biの旅にカメラが密着した。

監督：渡辺 匠　志子田 勇

©TBS

歌って、踊って、悩んで、前進！
自分磨きに無我夢中！原石からダイヤモンドへ

カラフルダイヤモンド
～君と僕のドリーム～

名古屋を拠点に活動するBOYS AND MENの弟分で2023年デビューしたボーイズグループ「カラフルダイヤモンド」。メンバー達の情熱や想いや悩みなど、、、いつかはダイヤモンドのような輝きを放つため！原石たちが個性豊かに輝いていく今をお届けする。

監督：津村有紀

©TBS

ソーシャル・セレクション ｜ 人種や戦争、社会問題など現代を取り巻く重要なテーマに迫る

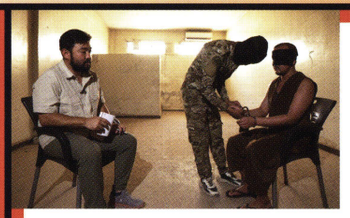
音楽家はなぜ、社会発信を強めていったのか。
坂本龍一が遺したもの…

坂本龍一
WAR AND PEACE 教授が遺した言葉たち

2023年3月、逝去した音楽家・坂本龍一。911テロ、イラク戦争、そして東日本大震災、激動の時代に音楽家はどんなメッセージを遺していたのか。坂本龍一はなぜ社会への発信を強めたのか。TBSに残る秘蔵映像を一挙公開。知られざる「戦争と平和」への思いとは…。

監督：金富 隆

© TBS



世界を震撼させたイスラム国、
その危険思想は”生きていた“

BORDER
戦場記者 ×イスラム国

「お前の首を切り落としてやる」シリアの難民キャンプで子供たちが放った言葉だ。壊滅したはずの過激派組織イスラム国。しかし他者との共生を拒みながらも、世界に広がった極めて危険な思想に、いまだ共鳴する人たちがいる。いったい、なぜ。忘れられたシリアの戦地で、記者が「境界BORDER」を歩いた。

監督：須賀川 拓

© TBS

”森の国“日本
放置された末に今、「守り人」たちは…

サステナ・フォレスト
～森の国の守り人（もりびと）たち～

日本の国土の約7割は森林だ。かつて人々は街ではなく森に通い、色々なものを享受してきた。だが現在は森が放置され、獣害や土砂崩れのリスクも高まっている。広葉樹はナラ枯れが広がり、針葉樹は手入れすら行われず、一斉に切っても植え替えはわずか3割。日本の森を見守る「守り人」たちは今…。

監督：川上敬二郎

© TBS

たとえ何度裏切られても――
居住支援を続ける理由とは？

家さえあれば
～貧困と居住支援～

大阪・西成で生活困窮者への居住支援を続ける坂本慎治さん。連日、全国から相談者がやってくる。大寒波が到来した２０２２年１月、坂本さんのもとにまた一本の電話がかかってきた。声の主は、二十歳の青年。坂本さんはすぐに車を走らせた。「大丈夫、家さえあれば何とかなる」

監督：海老桂介

© MBS

絵を描くことすらも許されない時代が
かつて日本にあった

102歳のことば
～生活図画事件 最後の生き証人～

太平洋戦争直前、北海道旭川市で起きた「生活図画事件」。美術部の学生らが逮捕された容疑は治安維持法違反だった。彼らの絵は、なぜ取り締まられたのか。この事件の「最後の生き証人」となった菱谷良一さんは102歳を迎えた。亡き友の遺志を継ぎ、いまも声を上げ続ける理由とは。

監督：長沢 祐

© HBC

「歴史の女神」は見つめている
いつも愚かで不寛容な私たちを

リリアンの揺りかご

「私の子供も殺すのですか？」
障害者殺傷事件の犯人に、障害児の父である記者は聞く。ヘイトデモや歴史改ざんに共通するのは一方的な不寛容だ。100年以上前の映画『イントレランス』は不寛容を描き、それを揺りかごのシーンがつないでいく。その揺りかごをモチーフに、現代日本の様々な不寛容を描く。

監督：神戸金史

© RKB